

家の中の安全対策

- 家具の転倒、落下防止のため、金具などで固定する。
- 重い荷物は高い所に置かず、床に置いておく。
- 出入口付近には荷物を置かず避難口を確保する。
- 飛散防止フィルムを貼るなどガラスの飛散を防止する。
- 停電に備えて、懐中電灯や携帯ラジオと予備の電池を準備しておく。
- 住宅用火災警報器、住宅用消火器を設置・点検しておく。
- タコ足配線やコードを束ねて使用しない。

家の外の安全対策

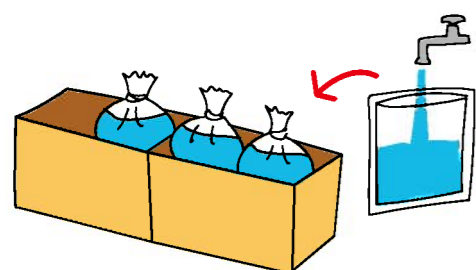
- アンテナ、看板などは、針金などを使って補強しておく。
 - 外壁に亀裂はないか。
 - ブロック塀にぐらつきや亀裂はないか。
 - 農業用水路や、排水溝(下水溝)、雨どいのゴミや泥、落ち葉や土砂を取り除き、水はけを良くしておく。
 - 崩れそうながけはビニールシートで覆い、雨水の浸透を防ぐ。
 - 瓦の割れ、ずれ、はがれはないか。トタン屋根のめくれ、はがれはないか。
 - 窓枠のがたつきはないか。ひび割れはないか。
 - 物干し竿、植木鉢、自転車などが風で飛ばされないようにする。
 - プロパンガスボンベが固定されているか確認する。
- 電気の引込線のたるみや破損があったら、電力会社に連絡しましょう。

家屋の浸水対策

簡易水防工法は、家庭にある物を使って家屋の浸水や流入を防ぐ方法です。水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止にもなります。

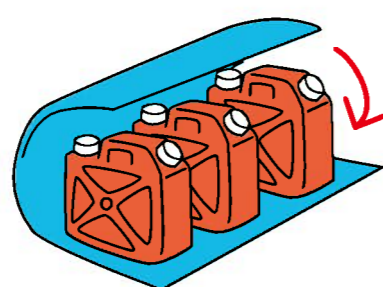
● ゴミ袋による簡易水のう

40リットル程度の容量のゴミ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。



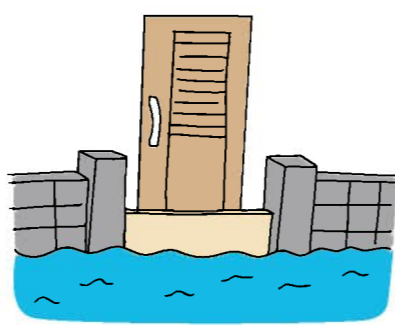
● ポリタンクとレジャーシート

10リットルまたは20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用します。



● 止水板

出入口に長めの板などを設置し、浸水を防ぎます。



自主防災組織で地域を守る

自主防災組織とは、地域の皆さんが災害に対して協力し合う組織です。自主防災組織を結成し、地域防災活動を行うことで災害に強いまちづくりを目指しましょう。

平常時の活動

● 作ろう、参加しよう、育てよう!

日頃の付き合いがある隣近所や行政区などで、互いに助け合い、協力し合える体制づくりをしましょう。



● みんなで学ぼう!

防災に関心を持ち、防災に関する知識を身につけましょう。災害が起こったときに予想される事態や対応について話し合いましょう。



● 地域を点検しよう!

- 消火栓や防火水槽の近くに、障害物はありませんか?
- 避難場所を皆さんが知っていますか?
- 避難経路に危険な場所はありませんか?



● 訓練をしよう!

- 初期消火訓練
- 避難所の開設・運営訓練
- 避難者の誘導訓練



災害時の活動

- 初期消火活動 身の安全を第一に考え、消火器などを用いた初期消火の実施
- 避難誘導支援 高齢者や障がいがある人などへの避難誘導の支援
- 救出・救護活動 まず身の安全を確保し、その後被災者の救出や救護活動の支援
- 情報の収集・伝達 災害に関する正しい情報を収集伝達し、支援活動などを実施
- 避難場所の支援 水や食料などの配給支援や炊き出しなどの活動支援



災害時に配慮を要する人への支援

高齢者や障がいがある人など、災害時において特に配慮を要する人は、地域の皆さんの支援が必要です。

支援するとき心がけたいポイント

- 相手を尊重する …… 必要な支援だからと押し付けるのではなく、相手の意見に耳を傾け、それを尊重しましょう。
- 笑顔で接する …… 笑顔は相手に安心感を与えます。笑顔で接し、信頼関係を築きましょう。
- 無理な支援はしない …… 無理な支援は思わぬ事故につながります。自分にできる支援を行いましょう。
- 医療行為はしない …… 薬を飲む際の支援や応急手当てを除き、医療行為は行わず医師などの専門家に相談しましょう。

● 高齢者・病気の人の支援

- 背負う(または担架、リアカーなどを利用する)などして安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



● 車いすを利用している人の支援

- どのように介助したらいいか、本人に確認する。
- 階段では2人以上が必要。
- 上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。



● 日本語が話せない人の支援

- 身振りや手振りなどでコミュニケーションをとる。
- やさしい日本語を心がけ、積極的に支援の意思を伝える。



● 知的障がいなどがある人の支援

- やさしく声をかけ、相手を安心させる。
- 相手の気持ちを落ち着かせてから、安全な場所へ誘導する。



● 目の不自由な人の支援

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



● 耳の不自由な人の支援

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

